

関西国際空港連絡橋の概要

Outline of Kansai International Airport Bridge

川田工業(株)・四国工場

1. まえがき

関西国際空港は、現在の大阪国際空港の騒音による使用制限や、増大する航空需要に対応すべく計画されたもので、大阪湾東南部の泉州沖約5kmの海上に建設される。

本事業は、その主体が国、地方公共団体および民間の三者による共同出資で設立された関西国際空港株式会社であり、いわゆる民活事業の第1号であること、さらに、関連工事に外国企業の参入を受け入れるなど、今日のわが国の建設事業の状況を、ある意味で象徴しているといえる。

この海上の空港島へのアクセスとして全長3750mの空港連絡橋が計画されているが、これは30基の鋼製橋脚、6連の鋼3径間連続トラス橋および鋼箱桁橋よりなっている(図-1参照)。

現在、昭和68年3月の開港にむけて各工事が進められているが、以下川田工業(株)が参加している工事について概要を紹介する。

2. P₃鋼製脚の製作

空港連絡橋下部第4工区の一部として、(株)熊谷組よりP₃鋼製脚の工場製作を請け負っているが、その概要は以下の通りである。

形 式：鋼製1層門型ラーメン

寸 法：フーチングおよび橋脚

幅28.5m×長さ36.25m×高さ35.7m

鋼 重：約2345t

製作の手順としては、フーチングおよび脚柱部をそれぞれヤードで1体ブロックとした後、脚柱部を建ておこして脚の大ブロックを完成し、現地へ輸送する。現地では大型フローティングクレーンによる一括架設がなされる予定である。

3. 鋼トラス橋の製作

川田工業(株)をリーダーとするJV(共同企業体)は空港連絡橋鋼トラス橋製作・架設その6工事としてP₂₂~P₂₅の3径間連絡鋼トラス橋の工場製作および架設にあたる。その概要は以下のとおりである。

形 式：道路、鉄道併用3径間連続ダブルデッキートラス橋(道路床版はトラス上弦材と合成された鋼床版)

支 間：149+150+149m

主構間隔：20m

主 構 高：17.5m

鋼 重：約8960t

架設は施工の長さ178m、重量約3600tの大ブロックをはじめとする3つの大ブロックをフローティングクレーンにて一括架設する工法にて行われる。

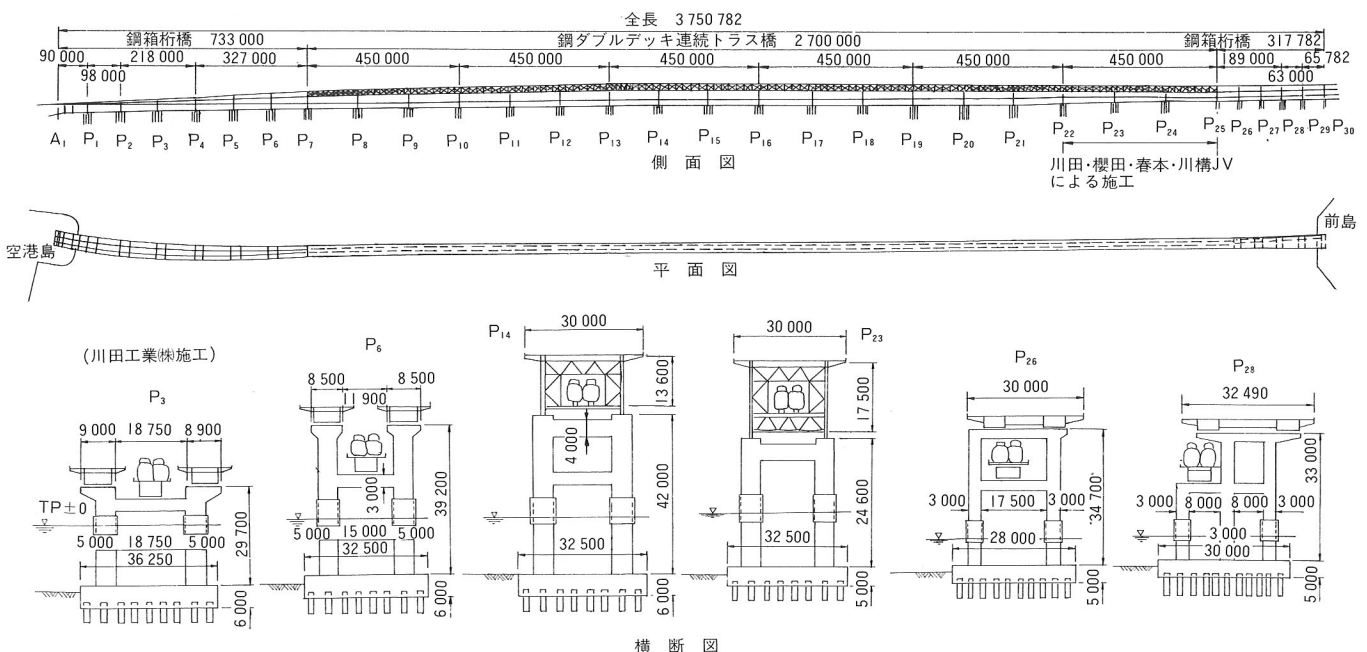


図-1 関西国際空港連絡橋の一般図

(文責・大村外志男)